

## 2017年度第67回 日本学連総会 資料

開催日時：2017年(平成29年)11月11日(土曜日) 17:20~19:00

開催会場：上石津緑の村公園 奥養老

議事録作成者：坂野 翔哉 (東京理科大学)、広報部員 山川登 (東京大学)

### 議題

1. 議長選出
2. 2016年度決算報告 資料1
3. 2017年度決算中間報告 資料2
4. 新歓フライヤーについて 資料3
5. 春インカレについて
6. 加盟校について 資料4
7. インカレスプリントについて 資料5
8. 地区学連セレと全日本大会の融合について 資料6
9. 各部局活動報告
10. 地区学連活動報告 資料7
11. 次回総会について

### 目次

1. 資料1 2016年度会計決算報告書.....2
2. 資料2 2017年度決算中間報告 .....3
3. 資料3 新歓フライヤーの報告書.....3
4. 資料4 日本学連加盟校について.....4
5. 資料5 インカレスプリントについて .....5
6. 資料6 地区学連セレと全日本大会の融合について .....7
7. 資料7 平成29年度関西学連規約改正事項一覧 .....7
8. 資料8 総会案内資料

# 1. 資料 1 2016 年度会計決算報告書

2016 年度会計決算報告

2016 年度日本学連会計 成澤 春菜

2017/11/9

収入項目				単位: ¥	
収入項目	単価	数量	金額	予算	
加盟金					
個人(単価2000円)	2,000	1288	2,577,400	2,500,000	
加盟校(単価4000円)	4,000	38	152,000	140,000	
準加盟校(単価1000円)	1,000	9	9,000	14,000	
賛助金					
2016 年度賛助金			39,500	90,000	
事業収入					
2015 年度CM&R 貸付金			1,500,000	1,500,000	
2015 年度CM&R 黒字返金			588,960	900,000	
地図関係					
地図関係			1,708,850		
その他					
ファミテック			102,700		
関東学連から家賃として			50,000	50,000	
利息			157	1,000	
小計			6,728,567	5,195,000	


※1. ユニバーは2年に1度であり、2年に1度まとめて30万円を支出するが、計算上は、1年に15万円を予算として計上することとなる。

※2. 活動報告書作成費は毎年25万円を予算として計上。ただし、発行は2年に1度なので、2年に1度50万円を支出している。

※その他  
赤字の理由としてはインカレ 黒字返金の減少、臨時幹事会の開催、次期幹事の参加、活動報告書発行が主にあげられる。  
去年度は黒字で¥1,232,264であり、学連の資産はここ3年でみれば黒字。

支出項目		単位: ¥	
支出項目	詳細	金額	予算
インカレ関係			
2016 年度CM&R 貸付金		1,500,000	1,500,000
部局活動費			
広報部		5,000	10,000
事業部		0	150,000
事務局		18,800	50,000
普及部		0	10,000
理事会		135,850	100,000
渉外部	矢板・日光地区挨拶まわり	51,280	100,000
技術委員会関係			
裁定委員会地図代		24,698	
インカレアドバイザ派遣		17,449	50,000
学連合宿補助		0	
ユニバー補助(※1)	オフィシャル補助など	300,000	150,000
幹事会関係			
印刷費	活動報告書作成費(※2)	903,960	250,000
幹事役員活動費	幹事会交通費	1,284,086	1,050,000
	幹事会宿泊費	789,548	500,000
	幹事会会場使用料	11,040	50,000
	資料印刷代	0	50,000
事務局維持費			
事務局維持費	家賃100000×12	1,200,000	1,200,000
地図関係			
地図作成費		1,550,000	※※
その他支出			
JOA関係	年会費	100,000	100,000
	保険金	3,000	3,000
地区学連への賛助金フィードバック		18,000	25,000
ファミテックのインカレ 広告費		0	20,000
手数料		5,724	5,000
小計		7,918,435	5,373,000

2016年度の収支 ¥1,189,868の赤字

幹事長	会計監査	会計監査
		

## 2. 資料 2 2017 年度決算中間報告

2017年度会計中間報告

11月6日時点




2017/11/11

2017年度日本学連会計 竹内 公一

単位: ¥

収入項目	単価	数量	金額	予算
加盟金				
個人(単価2000円)(※1)	2,000	1335	2,670,800	2,500,000
加盟校(単価4000円)	4,000	38	152,000	140,000
準加盟校(単価1000円)	1,000	13	13,000	14,000
賛助金				
2017年度賛助金			71,000	90,000
事業収入				
2016年度ICM&R貸付金			1,500,000	1,500,000
2016年度ICM&R黒字返金			1,575,654	500,000
地図関係				
地図収入(※2)			※※	※※
その他				
関東学連から家賃として			50,000	50,000
利息			46	1,000
目的不明の振り込み			500	
	小計		6,033,000	4,795,000

※1 単価は2000円だが、追加登録の人(新入生除く)については、追加登録費200円がかかるため、2000円の倍数にはなっていない  
 ※2 地図収入については年度末に確定するため現時点では不明  
 ※3 ユニバーは2年に一度であり2年に一度まとめて30万円を支出するが、計算上は1年に15万円を予算として計上することとなる  
 ※4 活動報告書作成費は毎年25万円を予算として計上。  
 ただし、発行は2年に一度なので、2年に一度50万円を支出している。  
 ※5 地図収入と同様

幹事長	会計監査	会計監査
		

単位: ¥

支出項目	詳細	金額	予算
インカレ関係			
2017年度ICM&R貸付金		0	1,500,000
部局活動費			
広報部		0	10,000
事業部		0	150,000
事務局		0	50,000
普及部		0	10,000
理事会		0	100,000
渉外部		16,065	100,000
技術委員会関係			
裁定委員会地図代		0	
インカレアドバイザー派遣		0	50,000
学連合宿補助(3万円)		30,000	
ユニバー補助(※3)	オフィシャル補助など	0	150,000
幹事会関係			
印刷費	活動報告書作成費(※4)	0	250,000
幹事役員活動費	幹事会交通費	601,553	1,050,000
	幹事会宿泊費	222,860	550,000
	幹事会会場使用料	6,990	50,000
	資料印刷代	170	0
事務局維持費			
事務局維持費	家賃100000×12	1,200,000	1,200,000
地図関係			
地図作成費(※5)		※※	※※
その他支出			
JOA関係	年会費	100,000	100,000
	保険金	3,000	3,000
地区学連への賛助金フィードバック		0	25,000
ファミテックのインカレ広告費		0	20,000
手数料		1,296	5,000
	小計	2,181,934	5,373,000

## 3. 資料 3 新歓フライヤーの報告書

第2回幹事会資料に掲載済であるため割愛した。

## 4. 資料 4 日本学連加盟校について

日本学連加盟校について

文責:2017年度日本学連幹事長 瀬川出

今年度、学連加盟校の基準の見直しを行っています。

春インカレ後の総会において決議をとり、可決された場合来年度以降新しい基準になります。否決された場合は現行規約通りです。

議題は大きく2つです。

### ① 人数による基準について

日本学連幹事会は

- ・「3人以上の加盟員」と「地区学連の承認」が加盟校となれる条件である。
- ・加盟校は「インカレリレー選手権クラスの出場資格」を持ち、「日本学連総会及び地区学連総会への参加義務」がある。
- ・地区学連総会と日本学連総会に渉外が参加しないことが続く場合、準加盟校に降格される。

という方針を固めました。

これについて異議や質問がある場合、各校で意見をまとめてください。

### ② 加盟校金の変更について

今年度より、加盟員登録の方法が各校によるデータベースへの登録になり、事務局による作業負担が低減しました。そのこともあり、また以下のメリットも考慮し、加盟校金を0円にすることを考えています。

#### 【メリット】

- ・人数の少ない加盟校にとって一人あたりの負担金が減少する
- ・加盟校を増やすことへのハードルを下げる事が出来る

しかしデメリットもあります。

#### 【デメリット】

- ・現在は会計に余裕があるが、今後必ずしも余裕があるとは限らない
  - ・0円にしてしまうと加盟校として日本学連の一端を担うという意識が低下する
- いくらが適切な設定となるか

参考資料

[http://www.orienteering.com/~uofj/media/conference/20171018-2017\\_2nd\\_report.pdf](http://www.orienteering.com/~uofj/media/conference/20171018-2017_2nd_report.pdf)

アンケート回答は各校ごととしますが、統一的な意見を求めているわけではなく、広く意見を集めていただきたいと思います。同じ意見が多かった場合は「大半は……だった。」などの回答でお願いします。

アンケートは以下のリンクよりご回答ください。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSe3IObD-0grG81Y9ITsWTPvN5fqVHAP2Quiv-X0OxtBGh23nA/viewform>

※各議論、「加盟校、加盟員を増やす努力を続けていかなければならない」という方針に基づいています。学生オリエンテーリング人口は現状増加傾向にありますが、いつ減少に転じてもおかしくなく、減少に転じた場合、多くの人が不利益を被ることになります。このことを念頭においていただいで議論いただければ幸いです。

## 5. 資料5 インカレスプリントについて

インカレスプリントについて

文責:2017年度日本学連幹事長 瀬川出

兼ねてより、インカレスプリントの採算が取れないことが問題となっています。

今後よりインカレスプリントが発展し、継続していくためには、インカレスプリントの魅力向上と収益増加の両立が重要となってきます。

それについて、今回幹事会からの提案と、意見の募集を行います。

いずれも今総会での決議は行わず、アンケート結果によって今後を考えていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

### ① インカレスプリント選手権クラス人数増加について

現行男子 60 人女子 30 人でインカレスプリント選手権クラスは開催されています。

この人数を増加することを提案します。

#### 【メリット】

- ・より多くの人インカレスプリントの面白さに気付く
- 選手権クラス人数が増えると、選手権クラス参加校が増える
- 選手はもちろんのこと、応援および併設に参加する人が増加する
- 魅力面、収益面どちらも向上する(かも)
- ・各地区学連でトレインの制約がすくない
- フォレストトレインは地区学連によって練習環境に差がある可能性がある
- ・新人も活躍しやすい環境をつくる
- フォレストよりもスプリントはハードルが低い

## 【デメリット】

- ・選手権クラスの全体としての競技レベル低下の懸念
- インカレミドルは選手権クラス人数が減少してきた歴史を持つ
- ・選手権クラスの時間がのび、運営負担になる
- 選手権クラスでもフォレストと違い1分間隔出走。フォレストよりは負担は低い。

これについて適切だと思われる人数、もしくは増加への反対を話あってきてください。  
幹事会としては、男子+20人、女子+10人が賛成多数を占めました。

## ② 併設クラスの在り方について

- ・選手権と同じコースを走ると、併設クラスに用意されたコースを走るとどちらがいいか？
- (※スプリントは観戦が大事な要素の一つです。併設クラス出走者は選手権クラス観戦を前提とします)
- ・フォレスト競技と同様の併設クラス分けを求めるかどうか？
  - ・仮にインカレスプリントがロングと別日の独立開催だった場合、インカレスプリントリレーがあれば参加するか？あるいはどのようなインカレであれば参加したいか？

この3点について、各校で話し合ってきてください。

1,2ともに、アンケート回答は各校ごととしますが、統一的な意見を求めているわけではなく、広く意見をまとめていただきたいと思います。同じ意見が多かった場合は「大半は……だった。」などの回答をお願いします。

アンケートは以下のリンクよりご回答ください。

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdWEDpPkkUGosxdLIyFkE9jqaf1jfqdjVeXInvnl\\_HaCxAyIw/viewform](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdWEDpPkkUGosxdLIyFkE9jqaf1jfqdjVeXInvnl_HaCxAyIw/viewform)

※各議論、「加盟校、加盟員を増やす努力を続けていかなければならない」という方針に基づいています。学生オリエンテーリング人口は現状増加傾向にありますが、いつ減少に転じてもおかしくなく、減少に転じた場合、多くの方が不利益を被ることになります。このことを念頭において議論いただければ幸いです。

## 6. 資料 6 地区学連セレと全日本大会の融合について

インカレロングセレクションと全日本大会の融合について

文責:2017年度日本学連幹事長 瀬川出

昨年度のインカレ総会で決定しました通り、2018年度より全日本大会で21E権保持者の学生は、気兼ねなく全日本大会に参加していただくために、インカレロング選手権クラスのセレクションを免除することになりました。公認大会への学生の参加およびE権の獲得を目指す選手は増加したように思われます。これは、全日本大会改革の大事な一部であり、これについては成果が出ているといえるのではないのでしょうか。

現在すでに数人の選手が21E権を獲得し、2018年度のインカレロング選手権クラスのセレクションを、地区学連枠とは別枠として免除となりました。今後も増加することが考えられますので、運営上の都合から仕組みを再考することになります。

そこで幹事会からは2019年度以降につきまして、以下の提案を致します。

・全日本大会 21E 権保持者は地区学連枠内でのセレクション通過として扱う。E 権保持者が地区学連枠以上に存在した場合は、セレクションで選考する人数として学連枠を 1 枠最低限確保する。

最低限 1 枠の確保としていますが、この人数は適切でしょうか。この人数も含め上記提案について各校賛否および、適切だと思われる人数を話し合ってください。

この方針は次回春インカレ後の総会で決議をとり、可決の場合 2019 年度のセレクションより適用とする予定です。ただし、2019 年度 of 全日本大会は時期も現在発表されておらず、時期が秋季などになった場合のルール作りに関しては未定とします。

アンケート回答は各校ごととしますが、統一的な意見を求めているわけではなく、広く意見を集めていただきたいと思います。同じ意見が多かった場合は「大半は……だった。」などの回答でお願いします。

アンケートは以下のリンクよりご回答ください。

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf2mx8UDlooFjX35cbXM5IZj0OdT\\_GSpDu\\_VxzyFz2\\_v9jJKA/viewform](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf2mx8UDlooFjX35cbXM5IZj0OdT_GSpDu_VxzyFz2_v9jJKA/viewform)

※各議論、「加盟校、加盟員を増やす努力を続けていかなければならない」という方針に基づいています。学生オリエンテーリング人口は現状増加傾向にありますが、いつ減少に転じてもおかしくなく、減少に転じた場合、多くの人が不利益を被ることになります。このことを念頭において議論いただければ幸いです。

## 7. 資料 7 平成 29 年度関西学連規約改正事項一覧

## 平成 29 年度 関西学連規約改正事項一覧

当連盟 Web サイト公開版において体裁の崩れ及び誤植が確認されたため、当該箇所については条文の改正手続きを経て修正する。

文言の修正等を除いた内容変更を伴うのは第 49 条並びに当連盟役員の氏名を記載した附則のみである。ついては以下の改正について総会の承認を願いたい。

### 【新旧対照】

#### 第 9 条 3 項

(旧) 加盟校が更新時に第 11 条 1 項を満たさないときは、準加盟校として更新する。

(新) 加盟校が更新時に第 12 条 1 項を満たさないときは、準加盟校として更新する。

\* 11 条 1 項は加盟者名簿の提出、12 条 1 項は加盟校の条件となる加盟員数についての規定であるため、明らかな誤植と考えられる。

#### 第 20 条 2・3 項

(旧) 2. 幹事長は前事項第 3 号の規定によって加盟校から総会の招集を請求された場合には、その請求  
3. があった日から 30 日以内にこれを招集しなければならない。

4. 総会を招集するには、幹事長は会日の 14 日以前に加盟校に日時・場所について通知しなければならない。この通知には会議の目的とされる事項が記載されていなければならない。

(新) 2. 幹事長は前項第 3 号の規定によって加盟校から総会の招集を請求された場合には、その請求があつた日から 30 日以内にこれを招集しなければならない。

3. 総会を招集するには、幹事長は会日の 14 日以前に加盟校に日時・場所について通知しなければならない。この通知には会議の目的とされる事項が記載されていなければならない。

\* 2・3 項は明らかに連続した単一の条文であり、統合するのが適当である。これに伴って 4 項は 3 項に変更される。また、2 項にある「前事項」の部分は、「前項」に訂正して支障ないとする。



## 第 40 条

(旧) 第 34 条の規定はこれを準用する。

(新) 会計監査の任期については、第 34 条の規定を準用する。

\* 40 条は会計監査の任期について定めたものである。また、34 条は 25 条に規定されるべきところの役員の任期に関する規定である。現行の条文では 2 つの条項の関係が不明瞭であると考えられるため、文言の修正が望ましい。

## 第 49 条

(旧) 本連盟諮問委員総会は、次の場合幹事長が遅滞なく招集する。

- i. 新たに諮問委員が選出された場合
- ii. 幹事会が開催を決議した場合
- iii. 諮問委員長が必要と認めた場合

(新) 本連盟諮問委員総会は、次の場合幹事長若しくは諮問委員長が遅滞なく招集する。

- i. 新たに諮問委員が選出された場合
- ii. 幹事会が開催を決議した場合
- iii. 諮問委員長が必要と認めた場合

\* 諮問委員会の業務の性質上、幹事会から独立して活動する状況が想定されるため、諮問委員長による招集を可能とした。

## 附則

1 本連盟の役員は次の者とする。

会長	中村哲
諮問委員長	秋山周平
幹事長	遠藤匠真
副幹事長	藤本拓也, 長砂太賀
会計部長	中川真緒
競技部長	田中創
渉外部長	羽鳥咲和
広報部長	布施谷綺子
普及部長	山田将輝
事務局長	山本明史

2 前項は、平成 30 年 3 月 31 日限りでその効力を失う。

# 2017年度第1回学連総会案内

**日時:11/11(土)**

**時間:17:00～**

**場所:インカレスプリント会場**

※プログラム発表前ですので、時間・会場は予定ですが、会場からの交通は各自での手配となりますので注意してください。

## 議題

- 1議長選出
- 2昨年度決算報告、今年度中間報告
- 3新歓フライヤーについて
- 4春インカレについて
- 5日本学連加盟校について
- 6インカレスプリントについて
- 7地区学連ロングセレクションと全日本大会の融合について
- 8各部局活動報告
- 9地区学連活動報告
- 10次回総会について

## 資料リンク一覧

3新歓フライヤーについて

今年度の新歓フライヤーについて説明いたします。  
<http://www.orienteering.com/~uofj/?blogid=1&catid=8&itemid=1277>

4春インカレ・リレー特例措置について  
今年度春インカレについてのお知らせとリレー特例措置についてのガイドラインを説明いたします。

資料

[http://www.orienteering.com/~uofj/media/rules/20171018-ic\\_guideline\\_special.pdf](http://www.orienteering.com/~uofj/media/rules/20171018-ic_guideline_special.pdf)

5日本学連加盟校について

アンケート

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSe3l0bD-0grG81Y9ITsWTPvN5fqVHAP2Quiv-X00xtBGh23nA/viewform>

6インカレスプリントについて

アンケート

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdWEDpPkkUGosxdLlyFkE9jqaf1jfqdVexInvnI\\_HaCxAYlw/viewform](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdWEDpPkkUGosxdLlyFkE9jqaf1jfqdVexInvnI_HaCxAYlw/viewform)

7地区学連ロングセレクションと全日本大会の融合について

アンケート

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf2mx8UDlooFjX35cbXM5lZj0OdT\\_GSpDu\\_VxzyFz2\\_v9jJKA/viewform](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf2mx8UDlooFjX35cbXM5lZj0OdT_GSpDu_VxzyFz2_v9jJKA/viewform)

以上5,6,7は資料を読んだうえ、各校で話し合い、学校単位で上記アンケートにお答えください。

5,6,7の資料

<https://www.dropbox.com/sh/cmpplvow76zzvww/AADhzOxfkr0haSHYobCi3Xuia?dl=0>

※今回の総会では、これらについて決議をとるものではありません。たくさんご意見をいただければ幸いです。

# 2017年度日本学連について

## 最近の日本学連の課題

### ①加盟校基準の変更

現状:地区学連ごとに加盟校の基準が異なる

→日本学連としては、加盟校を増やしたい

情報が相互にいきわたりやすい、人数を増やしたい

→人数面・金額面での検討

👉議題5

### ②インカレスプリント(ICS)の発展

現状:ICSは浸透してきたが、会計がまだ安定しない

→会計面(実務的な面)と魅力の両方を向上する必要

→人数や仕組みの検討

👉議題6

### ③全日本大会の普及

現状:全日本大会の参加者減、学生に参加してほしい

→全日本大会が継続的に開催されなければ、

オリエンテーリングの基盤となるJOAと都道府県協会も立ち行かなくなる

→インカレの開催もゆくゆくは危うくなる

→インカレの開催もゆくゆくは危うくなる

👉議題7

## 解決のために必要なこと

なによりもまずは新歓！

極論を言えば、人数が増えれば全日本大会もICSも会計面も解決する。現在のインカレのクオリティが保たれているのも、会計が安定しているのも人数のおかげ。

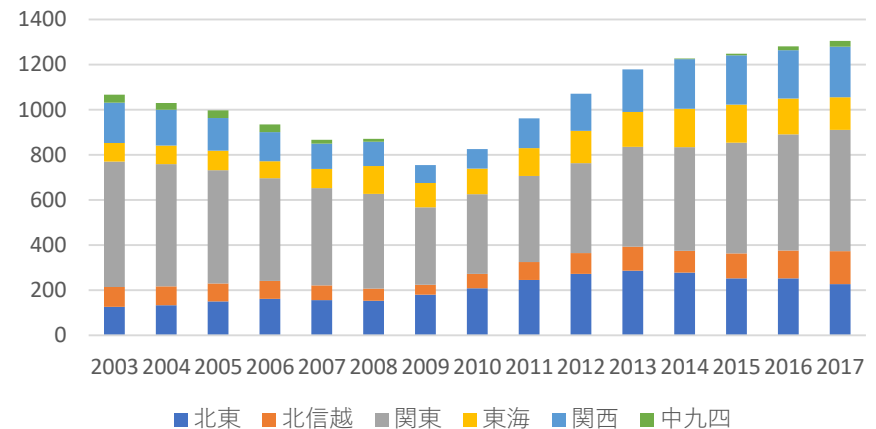
### 加盟員を増やそう！

加盟員数、現状は増加傾向にある

しかし、数年前は減少傾向にあった。

→原因は不明。いつ減少してもおかしくない。

加盟人数の変化



### 加盟校を増やそう！

既に加盟が多い学校は、そのうち頭打ちになる。

→他大と関わりのある学校は是非積極的な新歓を！

→新歓でこういうことがしたい、ノウハウが知りたい等あれば気軽に教えてください。

# 春インカレ・リレー特例措置について

## 春インカレ注意点

- ①エントリーについて
  - ・昨年度と同様、遅れエントリーが行われない。
- ②開会式開催方法について
  - ・例年通り金曜日に開催予定です。
  - ・但し、施設への泥持込を防止するために、**午前中での開催**が検討されている。
  - ・現在、泥持込により、日光市内で使える施設が激減。本年度施設も閉鎖となる事態が発生した場合、日光市内で使用可能な施設が、事実上無くなる。
  - ・本件は日光市内での永続的な大会開催(含練習会)を目的とした処置。
- ③開会式会場施設への泥持込に対する処分について
  - ・上記の状況を鑑み、施設への泥持込が発覚した場合、**学校単位で厳重処分**。
- ④モデルイベントの開催方法について
  - ・昨年度と同様、木曜日には行われない。
  - ・金曜日のみの開催。
- ⑤リレーの運営方針について
  - ・二走のコース距離については、**男女ともに一走、三走と同一**。

## リレー特例措置についてのガイドライン

- ①ガイドライン設定の背景
  - 元来、特例措置とは加盟人数が少ない大学にもインカレリレーの選手権クラスに出場する機会を与えるという普及目的で存在するものである。しかし学校対抗というインカレリレーの意義を守るためにも、ある程度の指標を設ける必要があることが提言された。
- ①使用権利をもつ大学
  - ・**インカレリレーエントリーが性別ごと2名以下の大学**。
  - ・3名以上の登録がある場合はいかなる場合にも認めることはできない。
- ②表彰
  - ・入賞タイム相当の記録が出た場合でも特例措置を使用したチームは参考記録とする。
  - ・特別表彰、速報ボードへ花をつける演出をすることはない。
- ③注意点
  - この度の特例措置ガイドラインの設定はインカレの学校対抗の場を守れているかという問題から提言されたが、同時に各大学の更なる普及を促す目的で作成された。少人数で構成されている大学を制限するものではない。

# 日本学連加盟校について

## ①新しい加盟校基準(3人)についての質問・反対意見

### ○反対意見

一校から「3人は少なすぎるという意見もあった」、にとどまった。

### ○質問

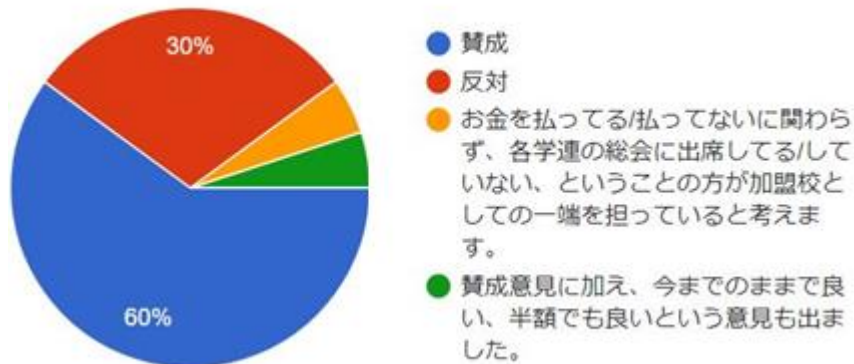
・選手権リレーへの出場を加盟校認定の基準とする場合、男女比は関係するののか。

(例えば男子2人、女子1人などの場合、選手権リレーには出場できないが加盟校とするののか。)

→加盟校であれば選手権リレーに出ることができる。上記の例でも加盟校になれる。

→春インカレ後の総会で基準3人で採決します。

## ②加盟校金を0円にすることについて



### ○ご意見

今よりは下げるべきだと思うが0円にする必要はないと思う。総会に出席しないで降格になった場合は加盟校と同じ値段を払うべきだと思う。

→いずれにせよ、一人当たりの加盟員費は払う。インカレリレーに出れないデメリットで十分ではないだろうか。

### ○質問

急に0円まで下げて財政面等においては問題ないのか？

→2014年度:収入の1.8%

2015年度:収入の1.5%(黒字の約1割)

2016年度:収入の2.2%(2016年度は赤字)

現状では大きく影響しないと考えている。

各校人数が2人増えれば賄えるがメリットとデメリットどちらが大きいのか。

### ○幹事長の意見

反対意見の多くは日本学連会計へのダメージを案じているものなのだろうか。総会の場で各校の話し合いがどうであったか聞きたい。

また、人数の少ない大学からはやはり賛成の声が大きかった。

→会計等と話あって方針を固める、春の総会までに議論を深めたい。

# インカレスプリントについて

## ①適切だと思われるインカレスプリント 選手権クラス人数と理由

○男子80人女子40人(60人) 12校  
vs男子60人女子30人 6校

○ご意見

●増加すべき

盛り上がるなら増やして良いと思う  
参加者が増えるなら良いと思う

→参加者のすそ野が広がることのメリットをとる意見が多かった。

●現状維持すべき

現状優勝者のタイムの150%に収まるくらいの選手層  
選手権クラスとしての質が保てない

→選手権の特別感を重視すべき、運営の負担を伺って  
からにするべき、などの意見が多かった。

●全体として

賛否両論書いていただいた学校も多かった。

②③とも関連するが、タイムスケジュールが実際どの  
ようになるのか、余裕がどれほどあるのか、今年度の  
チャレンジクラスでの収益がどれくらいになるのかを  
運営側と相談し、今後の方針を固めていきたい。

②併設クラスが走るコースはどのようなもの  
がいいか？

③併設クラスに複数レーンを求めるか？

○ご意見

選手権と同じコースを走りたいという意見が大多数を占  
めた。そのため、選手権のコースで単独レーンでの出走  
がよいとする意見が多かった。

一方、

観戦やモデルイベント参加を考えると時間短縮が図られ  
るべき(複数レーンであるべき)

山川杯に関わるレースになる場合は全く別のコースを作  
るべき、スプリントの財源を確保するなら併設で別コー  
スを作り、順位付けもした方が参加人数も増えるのでは  
ないだろうか

という意見も寄せられ、①とともにICS全体設計を今後も  
考える必要がある。

④仮にスプリント単独開催だった場合、  
スプリントリレーがあれば参加したいか？

○ご意見

参加したいという意見が多かった(9校)

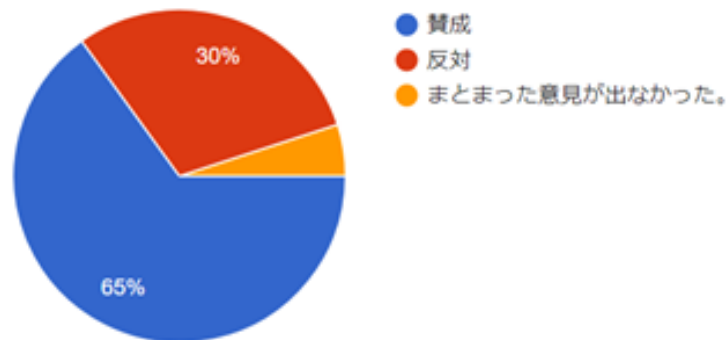
ロングと別開催となるとインカレが年に3回となり、交通  
費や参加費の負担が大きく参加が厳しくなる

といったネガティブな意見も目立ち、現在のスプリント  
の人気・状況ではスプリント単独開催は厳しいかもしれ  
ない。

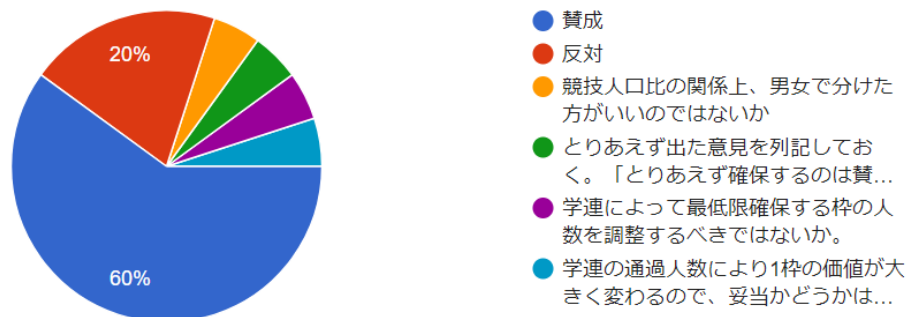


# 地区学連ロングセレクション全日本大会の融合

## ①地区学連枠内でのセレクション通過について



## ②地区学連枠が全日本E権保持者で占められた場合、1枠確保することについて



### ○ご意見

E権保持者がセレとなった全日本大会のEクラスに参加しなかったとしても通過するのか？

→通過とする。しかし、参加していただきたい。

全日本大会をインカレの様にさらに盛り上げるために行っていることなのか？

→全日本大会への学生の参加を促す目的。

全日本E権保持者は実力的には十分だが、公認大会は日程や場所の関係で行けない人もいたので不平等

→もっともだと思えます。

学連によって最低限確保する枠の人数の調整

男女別の枠の人数の調整

→しない。地区学連枠数自体はインカレの結果で決まっているため。(また、二桁人数一つの地区学連から全日本E権保持者が現れることは想定しない)

### ○幹事長の意見

全体として、全日本E権保持によるセレクション通過そのものに対して、納得いっていないという印象を受ける。来年度以降の全日本大会がどのようなものかも不明瞭であることや、公認大会の開催も不定期・不明瞭であり、不公平に感じる要因となっているようだ。

春の総会までに議論を深めていく。